

外国人が用いた待遇表現に対する 中国地方在住の日本人の評価

宮 岡 弥 生*

1. は じ め に

昭和58年より始まったいわゆる「留学生受け入れ10万人計画」のもと、日本国内の留学生数はこの20年間でほぼ10倍に増加し、今年度はついに10万人を超える見込みである。また、日本への定住や就労を目的とした外国人の数も年々増えており、日本国内で日常的に日本人が外国人と接する機会はいまだかつてないほど多くなっている。

日本人と外国人が日本国内においてコミュニケーションをとる場合、その多くは日本語によるものであると考えられる。留学生政策懇談会は、日本への留学のためには、外国語による教育プログラムをある程度普及させたとしても、一般的には日本語能力が不可欠であるとの認識を示している（留学生政策懇談会，1997；文部省学術国際局留学生課，1997）。このことから、今後も日本国内の留学生のほとんどは、少なくとも日常会話程度であれば、周囲の日本語母語話者と日本語によるコミュニケーションをとるものと考えられる。

日本語母語話者が外国人との会話において気をつけなくてはならないことは、分かりやすく誤解を与えない言葉遣いをし、外国人の未熟な表現には、聞く側が理解の努力を払うことである（国語審議会，1998）。一方、外国人の側も、日本語母語話者の言語生活を理解し、それに合わせた言葉遣いをするように心がける必要があるだろう。特に敬語を含む待遇表現は、外国人であっても適切に使えない場合には、文法等の誤りとは異なり、それが人間関係に亀裂を生じかねない結果にもなり得る（国語審議会，1998）。ところがこの待遇表現は、外国人日本語学習者にとって習得

* 広島経済大学経済学部講師

が最も困難だと考えられているものの一つである。実際、日本語を学習し始めた外国人がよく口にするのが、日本語の使い方で難しいのは助詞・助動詞と敬語だという点である（辻村，1989など）。例えば，体系的な敬語を持たない中国語を母語とする日本語学習者に対して母（1999）の行った調査によると，被調査者である中国語系日本語学習者の63.4%が，敬語の習得不完全のために日本人と話すとき困難を感じていた。

以上のように，外国人であってもある程度の敬語の習得が必要だと思われる一方で，敬語は外国人にとって特に習得が難しいという現実がある。この問題を解決する方法として，日本人とコミュニケーションをとる上で支障をきたさない程度の必要最低限かつ十分な待遇表現から教えることが考えられるだろう。そのためにはまず，運用上，最適だと思われる待遇表現を明らかにしなくてはならない。従来，待遇表現の使用の実態について話し手の側からは調査や考察が行われてきたが，聞き手の側からはなされていない。そこで本研究では，敬語運用の適切さを決めるのは，話し手ではなくむしろ聞き手であるという認識のもとに，外国人が用いた場合の敬語使用の適切さについて，聞き手の立場から明らかにする。

2. 調査

2.1. 調査の対象

日本語母語話者を対象に，話し手が用いた待遇表現を聞き手である日本語母語話者がどのように評価するかについて行った調査と分析で，結果に対する地域差の影響が観察された（宮岡・玉岡，2000）。そのため，本研究では対象地域を中国地方のみに限定した。質問紙の回答者である本研究の被調査者は，同じ方言圏に属すると思われる中国地方3県（広島・岡山・山口）に在住する日本人である。したがって，本研究で得られた分析結果は，これら3県に限定されたものである。被調査者の内訳は，男性271名，女性324名の合計595名である。世代別の内訳は，10代が79名，20代が104名，30代が81名，40代が111名，50代が92名，60代が77名，70代以上が51名である。

2.2. 質問紙

本研究では，2つの場面を想定して質問紙を作成した。場面1は，「あなたが道を歩いていると，見知らぬ女性が近づいてきて，あなたが駅の方へ行くのかどうかを尋ねました。」（以下，「初対面」と表記する。）である。場面2は，「あなたは，あなたの家で，家族ぐるみのつき合いをしている女性と2人で雑談をしています。

その時その女性が、次の日に開かれるコンサートにあなたが行くのかどうかを、あなたに尋ねました。」(以下、「親しい間柄」と表記する。)である。これら2つのそれぞれの場面について、待遇価値の異なる「行くの」・「行くんですか」・「行かれるんですか」・「いらっしゃるんですか」の各表現を話し手の日本人女性が用いたとき、どのように感じるかを被調査者に尋ねた。

待遇表現を構成する動詞として本調査で取り上げたのは、使用頻度が高く場面設定のしやすい「行く」である。この「行く」を用いて、待遇価値の異なる「行くの」、「行くんですか」、「行かれるんですか」、「いらっしゃるんですか」の4つの待遇表現を設定した。これらは、待遇価値は異なるが、相手に「行く」かどうかを尋ねるという基本的意味は同じである。「行くんですか」に類似した待遇表現に「行きますか」があるが、「これからあなたはどこへ行くか」と尋ねる時の表現として、「行くんですか」、「行かれるんですか」、「いらっしゃるんですか」の方が、それぞれ「行きますか」、「行かれますか」、「いらっしゃいますか」よりも使用頻度が高いという調査結果がある(荻野・金・梅田・羅・盧, 1990)ため、本調査では「行くんですか」類を採用した。また、「お行きになる」については、「いらっしゃる」という特定の言い換え形の方が落ち着きがよい(菊池, 1997)ので、採用しなかった。

待遇表現に対する被調査者の感じ方は、「とても気になる」を1点、「少し気になる」を2点、「どちらとも言えない」を3点、「あまり気にならない」を4点、「全然気にならない」を5点とする5段階尺度で測定した。これを、待遇表現の「適切度」と呼ぶ。つまり、「適切度」とは、待遇表現を聞き手の側からみた場合に、適切だと感じられる度合いである。

なお、本調査においては、待遇表現に対する被調査者の感覚を刺激するために、発話者を女性に限定した。これは、女性の方が男性よりも丁寧な言葉づかいをするというのが一般的な認識であるため、話し手が女性である方が、聞き手が話し手に敬語を要求する度合いが高いと思われるからである。話し手については、前述の「初対面」と「親しい間柄」の2つの場面で、それぞれ「年下の外国人」、「年上の外国人」、「年下の日本人」、「年上の日本人」の4種類の話し手を設定した。従って、話し手の条件は全部で8種類となる。

3. 分析と結果

待遇表現の適切度について、2(男・女)×4(待遇表現)の計画による分散分析(待遇表現についての反復測定)を行った。詳細な分析に関しては、被験者間要因である男女差を各待遇表現についてダンカン法による多重比較で検討した。被験

者内要因である4種類の待遇表現は、直交多項式対比によって男女差を加味して行った。

3.1. 外国人女性が初対面で用いた待遇表現に対する日本人の適切度

話し手の女性が被調査者と初対面である場合について、被調査者の適切度の平均と標準偏差を表1に示した。

表1 話し手である初対面の女性が用いた待遇表現に対する男女別適切度

話し手	被調査者の性別	待遇表現			
		いらっしゃるんですか	行かれるんですか	行くんですか	行くの
年下の外国人	男性 (n=271)	3.20 (1.42)	3.73 (1.23)	3.57 (1.22)	2.82 (1.35)
	女性 (n=324)	3.63 (1.42)	4.02 (1.17)	3.88 (1.19)	3.15 (1.37)
	男女の平均	3.43 (1.43)	3.89 (1.20)	3.74 (1.21)	2.99 (1.37)
年上の外国人	男性 (n=271)	3.25 (1.35)	3.68 (1.22)	3.63 (1.20)	3.07 (1.29)
	女性 (n=324)	3.71 (1.33)	4.00 (1.15)	3.89 (1.13)	3.31 (1.36)
	男女の平均	3.50 (1.36)	3.85 (1.19)	3.77 (1.17)	3.20 (1.33)
年下の日本人	男性 (n=271)	3.42 (1.34)	3.71 (1.21)	3.07 (1.32)	2.15 (1.25)
	女性 (n=324)	3.84 (1.26)	4.11 (1.07)	3.08 (1.31)	1.91 (1.10)
	男女の平均	3.65 (1.31)	3.93 (1.15)	3.08 (1.31)	2.02 (1.18)
年上の日本人	男性 (n=271)	3.34 (1.36)	3.58 (1.29)	3.33 (1.25)	2.71 (1.35)
	女性 (n=324)	3.64 (1.35)	3.91 (1.21)	3.48 (1.27)	2.77 (1.37)
	男女の平均	3.50 (1.37)	3.76 (1.26)	3.41 (1.26)	2.74 (1.36)

注1：括弧外は平均値で、括弧内は標準偏差。

注2：平均値は、最高が5で、最低が1となる。点数が高い程、適切度が高い。

3.1.1. 話し手である初対面の外国人女性が年下である場合の適切度

話し手である初対面の外国人女性が年下の場合の適切度に関する分散分析の結果、男女差 [$F(1,593) = 19.58, p < .0001$] および4種類の待遇表現 [$F(3,1779) = 83.72, p < .0001$] に主効果が見られた。待遇表現と男女差の交互作用は、有意ではなかった。

さらに、4つのすべての待遇表現についてダンカン法による多重比較で男女差を検討した結果、全体的に見て、女性の方が男性よりも、適切であると判断する傾向が見られた。さらに、直交多項式対比で4つの待遇表現間の適切度を比較したところ、すべての表現間で有意な違いが見られた。ただし、男女差による効果に差はなかったため、待遇表現間の比較においては、男女を一律に考えて良い。最も適切で

あるとされた待遇表現は「行かれるんですか」(M=3.89; 平均値は M で表記する。)であった。2 番目は「行くんですか」(M=3.74), 3 番目は「いらっしゃるんですか」(M=3.43) が適切な表現であるとされ, 最も適切度が低かった表現は「行くの」(M=2.99) であった。すなわち, 初対面の年下の外国人女性が, 待遇価値の非常に高い「いらっしゃるんですか」という表現を用いることを, 本研究の被調査者である日本人は必ずしも適切であるとは感じていないようである。また, 「行くの」というぞんざいな表現は, 外国人であろうと適切ではないという結果であった。

これを, 話し手が日本人の場合と比較すると, 適切とされる待遇表現の順番は必ずしも同じではない。話し手が年下の日本人女性の場合, 最も適切であるとされたのは, 外国人女性の場合と同様に「行かれるんですか」(M=3.93) であった。ところが, 2 番目に適切だとされたのは, 「いらっしゃるんですか」(M=3.65) で, 外国人の場合に 2 番目であった「行くんですか」は日本人の場合には 3 番目であった。4 番目は, 外国人の場合と同様に, 「行くの」(M=2.02) であった。

つまり, 本研究の被調査者である日本人は, 同じ初対面の年下の話し手であっても, 日本人の話し手に対しては「行くんですか」よりも「いらっしゃるんですか」の方が適切であると感じ, 外国人の場合には逆に「いらっしゃるんですか」よりも「行くんですか」の方が適切であると捉えていた。

3.1.2. 話し手である初対面の外国人女性が年上である場合の適切度

同様に, 2×4 の分散分析を行った結果, 男女差 [$F(1,593) = 16.96, p < .0001$] および 4 つの待遇表現 [$F(3,1779) = 55.21, p < .0001$] に主効果が見られた。待遇表現と男女差の交互作用は, 有意ではなかった。3.1.1. で述べた話し手が年下の外国人の場合と同様に, 女性の方が男性よりもすべての待遇表現において適切度が高かった。

適切度が 1 番高かったのは, 「行かれるんですか」(M=3.85) であった。2 番目に「行くんですか」(M=3.77) であったが, 双方の表現間には有意差がないので, ほぼ同じレベルの適切度であると言える。3 番目に「いらっしゃるんですか」(M=3.50) が適切な表現であるとされた。これは, 1 番目と 2 番目の待遇表現と比べて, 適切度が有意に低かった。最も適切度が低かった表現は「行くの」(M=3.20) であった。たとえ話し手が外国人で年上であっても, 「行くの」という待遇価値の低いぞんざいな表現は適切だとは思われないうようである。また, やはり前述の年下の場合と同様に, 年上の外国人話し手が待遇価値の非常に高い「いらっしゃるんですか」という表現を用いることを, 本研究の被調査者である日本人は適切だとは感

じていないようである。

これを話し手が日本人の場合と比較すると、適切度の順位は同じではない。話し手が日本人の場合には、適切度の高い方から順番に、「行かれるんですか」(M=3.76),「いらっしゃるんですか」(M=3.50),「行くんですか」(M=3.41),「行くの」(M=2.74)であった。つまり、3.1.1と同様に、本研究の被調査者である日本人は、話し手が初対面の年上の日本人である場合には、「行くんですか」よりも「いらっしゃるんですか」の方が適切であると、外国人の場合には逆に「いらっしゃるんですか」よりも「行くんですか」の方を適切であると感じていた。

以上のような、話し手が初対面であるときの適切度の順位の傾向は、話し手が日本人であるか外国人であるかでは違いがあったが、年下か年上かでは違いはなかった。このことから、初対面の場面では、年齢の上下よりも国籍の要因の方が、聞き手の感じ方を決定づける要因として強く働くとも考えられる。

3.2. 外国人女性が初対面で用いた待遇表現に対する日本人の寛容度

次に、外国人の話し手が用いた待遇表現の適切さをいかに日本人被調査者が判定したかを、日本人の話し手に対する判定と比較して「寛容度」を算出し、外国人の

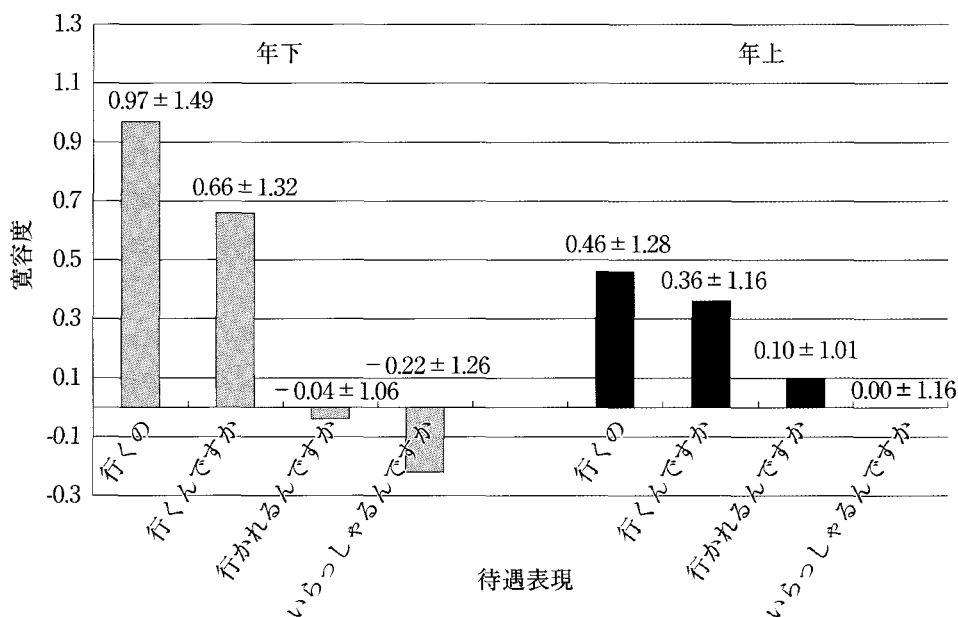


図1 初対面の年下および年上の外国人発話者が用いた待遇表現に対する寛容度

注：数値は寛容度の平均を、また、±は標準偏差を示す。

話し手に対して日本人被調査者がどのくらい寛容であるかを考察する。その方法として、話し手が外国人女性である場合の適切度から、同じ場面で話し手が日本人女性である場合の適切度を引いて両者の差を算出し、それを外国人の話し手に対する「寛容度」とした。これによって、外国人が用いる待遇表現が、日本人のそれと比べて、どのくらい「寛容」に受け取られるかが数値で分かりやすく表示されよう。なお、比較基準として用いた日本人の話し手の場合のデータ分析も、外国人の話し手の場合と同じ方法を用いた。4つの待遇表現に対する平均寛容度は、話し手が年下および年上の場合とに分けて、図1にグラフで示した。プラスの数値は、外国人の話し手に対して寛容であることを、マイナスの数値は、寛容でないことを示している。

3.2.1. 話し手である初対面の外国人女性が年下である場合の寛容度

以上の手順で算出した寛容度について、男女差と待遇表現をめぐる 2×4 の分散分析を行った。その結果、男女差 [$F(1,593) = 7.94, p < .0005$] および4つの待遇表現 [$F(3,1779) = 140.97, p < .0001$] に主効果が見られた。また、待遇表現と男女差の交互作用も有意であった [$F(3,1779) = 10.56, p < .0001$]。

4つの待遇表現についてダンカン法による多重比較で男女差を検討した結果、「行くの」および「行くんですか」の2つの待遇表現について、女性の方が男性よりも、寛容度が高かった。4つの待遇表現の寛容度について、直交多項式対比で比較した結果、すべての組み合わせで有意な差を示した。以下、それぞれについて述べていく。まず、最も寛容度が高かったのは、「行くの」($M = 0.97$)である。この表現は、適切度では最も低いものの(3.1.1を参照)、初対面の年下の外国人女性が待遇価値の低い「行くの」という表現を用いた場合、日本語ができないのだろうと考えるのか、非常に寛容に受け取られているようである。第2に寛容度が高かったのは「行くんですか」($M = 0.66$)である。第3に寛容度が高かったのは「行かれるんですか」($M = -0.04$)であった。この寛容度は、マイナスの数値ではあるが、限りなくゼロに近い。この表現は、初対面の場面で最も適切であるとされた待遇表現であり、そのため話し手が外国人の場合と日本人の場合とで、日本人被調査者の受け取り方に違いがなかったのであろう。むしろ、興味深い結果だったのは、外国人が待遇価値の最も高い「いらっしゃるんですか」($M = -0.22$)という表現を用いた場合である。これは、最も寛容度が低く、マイナスの数値を示した。つまり、「寛容度」から見ても、初対面で、年下の外国人女性が「いらっしゃるんですか」という非常に丁寧な表現を用いることについては、被調査者の日本人はかなり違和感を

覚えたようである。

3.2.2. 話し手である初対面の外国人女性が年上である場合の寛容度

それでは、初対面の話し手が外国人で年上の女性であるとうどうであろうか。同様に、男女差および待遇表現に関する 2×4 の分散分析を行った。その結果、男女差の主効果は有意ではなく、待遇表現の主効果は有意であった [$F(3,1779) = 28.45$, $p < .0001$]。待遇表現と男女差の交互作用は有意ではなかった。4つの各待遇表現には、男女差はないので、寛容度には、待遇表現のみに違いが見られたことになる。さらに、個々の表現について直交多項式対比で検討した。その結果、最も寛容度が高かったのは「行くの」($M = 0.46$)で、2番目に高かったのが「行くんですか」($M = 0.36$)であった。しかし、双方の表現間には有意な差はなく、両者は同じレベルの寛容度である。第3は「行かれるんですか」($M = 0.10$)で、第4が「いらっしゃるんですか」($M = 0.00$)で寛容度はゼロであった。つまり、「いらっしゃるんですか」という待遇表現は、年上の日本人が用いても年上の外国人が用いても、聞き手である日本人被調査者の感じ方に差はないということである。

3.3. 外国人女性が親しい間柄で用いた待遇表現に対する日本人の適切度

表2 話し手である親しい間柄の女性が用いた待遇表現に対する男女別適切度

話し手	被調査者の性別	待遇表現			
		いらっしゃるんですか	行かれるんですか	行くんですか	行くの
年下の外国人	男性 (n = 271)	3.27 (1.39)	3.58 (1.23)	3.73 (1.08)	3.39 (1.30)
	女性 (n = 324)	3.57 (1.38)	3.77 (1.22)	3.87 (1.10)	3.68 (1.26)
	男女の平均	3.44 (1.40)	3.68 (1.22)	3.81 (1.09)	3.54 (1.29)
年上の外国人	男性 (n = 271)	3.26 (1.39)	3.52 (1.28)	3.84 (1.07)	3.74 (1.22)
	女性 (n = 324)	3.34 (1.49)	3.58 (1.34)	3.93 (1.12)	4.03 (1.16)
	男女の平均	3.30 (1.45)	3.55 (1.31)	3.89 (1.10)	3.90 (1.20)
年下の日本人	男性 (n = 271)	3.29 (1.40)	3.54 (1.30)	3.35 (1.24)	2.79 (1.44)
	女性 (n = 324)	3.49 (1.42)	3.76 (1.21)	3.56 (1.22)	3.07 (1.38)
	男女の平均	3.40 (1.41)	3.66 (1.26)	3.46 (1.24)	2.94 (1.41)
年上の日本人	男性 (n = 271)	3.21 (1.44)	3.38 (1.35)	3.58 (1.23)	3.53 (1.36)
	女性 (n = 324)	3.09 (1.50)	3.35 (1.41)	3.73 (1.20)	3.95 (1.24)
	男女の平均	3.14 (1.47)	3.36 (1.38)	3.66 (1.22)	3.76 (1.31)

注1：括弧外は平均値で、括弧内は標準偏差。

注2：平均値は、最高が5で、最低が1となる。点数が高い程、適切度が高い。

次に、話し手の女性が被調査者と親しい間柄である場合について分析結果を報告する。被調査者の適切度の平均と標準偏差は表2に示した。

3.3.1. 話し手である親しい外国人女性が年下である場合の適切度

適切度についての 2×4 の分散分析の結果、男女差 [$F(1,593) = 10.99, p < .001$], および繰り返し変数の4種類の待遇表現 [$F(3,1779) = 14.08, p < .0001$] に主効果が見られた。待遇表現と男女差の間に有意な交互作用は見られなかった。

また、各待遇表現について、男女差をダンカン法で比較すると、「行くの」および「いらっしゃるんですか」について、女性の方が男性よりも適切度が高かった。4つの待遇表現について直交多項式対比で比較した結果、すべての表現間に有意な違いが見られた。個々の表現について見ると、最も適切度が高かったのは「行くんですか」($M = 3.81$)である。2番目は「行かれるんですか」($M = 3.68$)である。3番目に適切度が高かったのは、「行くの」($M = 3.54$)である。最も適切度が低かったのは「いらっしゃるんですか」($M = 3.44$)である。話し手が年下であるためか、親しい間柄であっても待遇価値の低い言い方はあまり好まれないようである。また逆に、高すぎる表現は、年下であっても親しい間柄では支持されないようである。

このような話し手が外国人の場合に適切とされる待遇表現の順序は、話し手が日本人の場合とは全く異なっている。話し手が日本人の場合には、適切度が高い順に、「行かれるんですか」($M = 3.66$), 「行くんですか」($M = 3.46$), 「いらっしゃるんですか」($M = 3.40$), 「行くの」($M = 2.94$)であった。興味深いのは、適切度が最も低かった表現が、話し手が親しい年下の日本人の場合には「行くの」であるのに対して、外国人のときには「いらっしゃるんですか」と、丁寧さの度合いが全く逆の待遇表現であったことである。また、最も適切であると判断された表現は、話し手が親しい年下の外国人の場合には、日本人の場合の「行かれるんですか」よりも丁寧さが一段低い「行くんですか」であった。

3.3.2. 話し手である親しい外国人女性が年上である場合の適切度

適切度についての 2×4 の分散分析の結果、男女差に主効果は見られなかった。4種類の待遇表現 [$F(3,1779) = 46.29, p < .0001$] に主効果が見られた。待遇表現と男女差の間に有意な交互作用は見られなかった。従って、待遇表現についてのみ直交多項式対比で、詳細に考察すると、4つの待遇表現の中で最も適切度が高かったのは、「行くの」($M = 3.90$), 次いで「行くんですか」($M = 3.89$)であるが、この両者の表現には有意差はない。3番目は、「行かれるんですか」($M = 3.55$)であ

り、最も適切度が低かったのは、「いらっしゃるんですか」(M=3.30)である。これらの各表現には有意差が見られた。話し手の外国人女性が親しい間柄で、しかも年上であれば、「行くの」や「行くんですか」という待遇価値の低い表現がより好まれるようである。

これを日本人の場合と比較してみても、同様の傾向が見られる。話し手が日本人の場合には、適切度が高い順に、「行くの」(M=3.76), 「行くんですか」(M=3.66), 「行かれるんですか」(M=3.36), 「いらっしゃるんですか」(M=3.14)であった。このように、話し手が親しい間柄の年上の女性の場合、外国人と日本人とでは、適切だとされる表現の順位に違いはないようである。

3.4. 外国人女性が親しい間柄で用いた待遇表現に対する日本人の寛容度

5.3.2の「初対面」の場合と同様に、4つの待遇表現に対する平均寛容度を算出し、話し手が年下および年上の場合について図2にグラフで示した。

3.4.1. 話し手である親しい外国人女性が年下である場合の寛容度

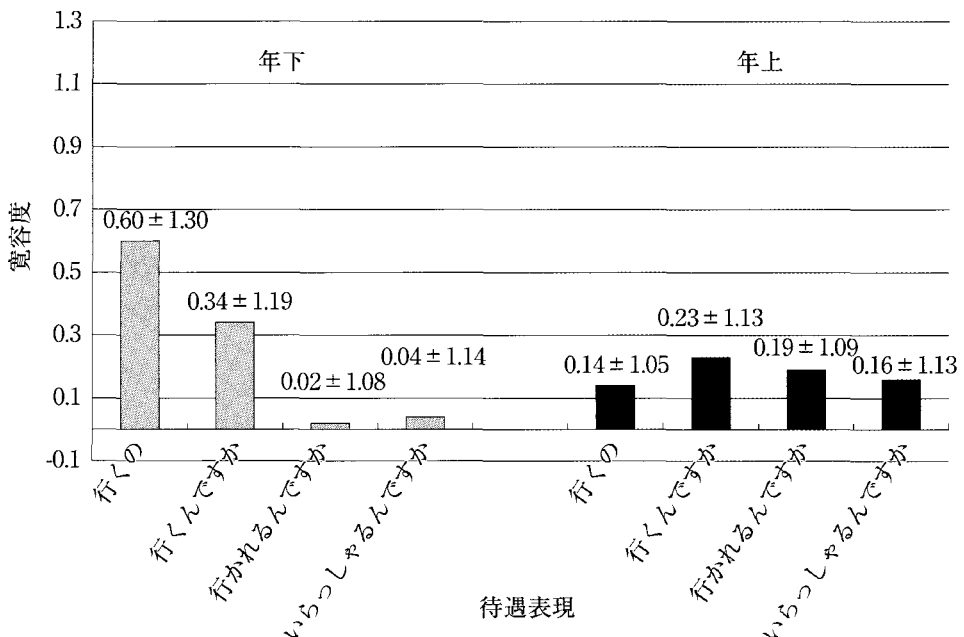


図2 親しい年下および年上の外国人発話者が用いた待遇表現に対する寛容度

注：数値は寛容度の平均を、また、±は標準偏差を示す。

同様の分散分析の結果、男女差に主効果は見られなかった。繰り返し変数の4つの待遇表現 [$F(3,1779) = 44.85, p < .0001$] に主効果が見られた。待遇表現と男女差の間に有意な交互作用は見られなかった。男女差が見られないので、待遇表現についてのみ考察する。図2から分かるように、すべての待遇表現について寛容度はプラスであった。さらに、直交多項式対比で各待遇表現を比較した結果、4つの表現の中で最も寛容度が高かったのは「行くの」($M = 0.60$)である。2番目に寛容度が高かったのは「行くんですか」($M = 0.34$)である。3番目は、「いらっしゃるんですか」($M = 0.04$)である。最も寛容度が低かったのは「行かれるんですか」($M = 0.02$)である。この3番目と4番目の2つの表現は、いずれもゼロに近く、有意な違いもない。つまり、親しい年下の女性であれば、日本人であっても外国人であっても、比較的待遇価値の高い表現を用いることに対する適切度はほぼ同じであり、その差である寛容度に違いが見られなかった。

3.4.2. 話し手である親しい外国人女性が年上である場合の寛容度

同様の分散分析の結果、男女差および待遇表現のいずれの主効果も有意ではなかった。しかし、待遇表現と男女差の間 [$F(3,1779) = 4.26, p < .01$] に有意な交互作用が見られた。

各待遇表現の男女差をダンカン法による多重比較で検討すると、「いらっしゃるんですか」でのみ、女性の方が男性よりも寛容度が高かった。さらに、4つの待遇表現について直交多項式対比で検討した。その結果、「行くの」の寛容度 ($M = 0.14$) と「行くんですか」($M = 0.23$)の間には有意差が見られたが、「行くんですか」と「行かれるんですか」($M = 0.19$)の間および「行かれるんですか」と「いらっしゃるんですか」($M = 0.16$)の間には有意差がなかった。つまり、「行くの」以外の寛容度はすべて同じだということである。

4. お わ り に

本研究では、「初対面」と「親しい間柄」の2つの場面で、年下と年上の外国人女性が用いた4種類の待遇表現を、広島・岡山・山口の中国地方3県に在住する日本人がどう受け取るかについて、5段階評価で「適切度」という観点から検討した。さらに、外国人の話し手の用いた待遇表現に対する適切度を、日本人の話し手の場合と比較して「寛容度」を算出し、違いを考察した。すべての分析の結果から、特に次の3つの点について興味深い傾向を見出した。

まず第1に、中国地方在住の日本人は、初対面の外国人女性が待遇価値の低い表

現を用いることに対して寛容であるという結果が得られた。つまり、文化庁(1995)の調査でも示されたような、外国人であれば多少変な日本語でもかまわないという日本人の一般的な態度は、本研究では図1で示した「行くの」という表現についての「寛容度」の高さに顕著に現れた。一般的な認識として、「初対面」で相手に「行くの」という表現を用いるのは、待遇表現運用上、不適切であろう。もちろん、本研究の年下の外国人女性が使った場合でもやはり不適切だという結果であった。しかし、寛容度で見ると、その表現を外国人女性が使った場合の寛容度は、他の表現と比べて最も高い。これは、外国人に対しては日本語の適切な待遇表現使用を期待しないため、非常に高い寛容度を示したのである。

第2に、「初対面」であるか「親しい間柄」であるかという場面、また年下・年上の違いに拘わらず、本研究でとりあげた中で待遇価値の最も高い「いらっしゃるんですか」という表現は、話し手が日本人女性の場合と同様に、これを外国人女性が用いる場合にも、最も適切な表現とは被調査者の日本人には受け取られなかった。つまり、仮に外国人が待遇価値の高い「いらっしゃるんですか」という表現を覚えて、本研究で設定したような場面で使っても、実際には「行かれるんですか」の方が少なくとも中国地方在住の日本人には受けが良く、「いらっしゃるんですか」は場合によってはかなり違和感を与えてしまうことになるという結果であった。中でも、親疎関係で言えば最も「疎」でありかつ年下であるため、かなり待遇価値の高い表現が求められる「初対面の年下」の話し手の場合でも、「いらっしゃるんですか」が最も適切な表現であると聞き手には受け取られていないことは注目に値するのである。

さらに第3に、ぞんざいであると思われがちな「行くの」という表現が、「親しい年下」の外国人女性が用いた場合に、「いらっしゃるんですか」よりも適切であると判断された。これは、話し手が日本人の場合とは逆の結果である。つまり、適切度が最も低かった表現が、話し手が親しい年下の日本人の場合には「行くの」であったのに対して、外国人のときには「いらっしゃるんですか」という待遇価値が全く逆の表現であった。また、最も適切であると判断された表現は、話し手が親しい年下の外国人の場合には、日本人の場合の「行かれるんですか」よりも待遇価値が一段低い「行くんですか」であった。

これと同じような傾向は、話し手が初対面の年下と年上の場合にも見出せる。すなわち、本研究の被調査者である日本人は、同じ初対面の話し手であっても、日本人の話し手に対しては「行くんですか」よりも「いらっしゃるんですか」の方が適切であると感じ、外国人の場合には逆に「いらっしゃるんですか」よりも「行くん

ですか」の方が適切であると捉えていた。これは、話し手が外国人であるということだけで、既に日本人が外国人に対して心理的に距離感を抱いており、その距離を少しでも縮めようとする意識が働いているためではないだろうか。

これは、『敬語』を使うことで配慮し、尊重しようとする事と、『敬語』を使わないことで配慮し、尊重しようとする事は、それほど矛盾した事ではない。』という話し手の立場に立った指摘（蒲谷・川口・坂本，1998，p. 230）と同質のもので、聞き手の立場から見ても、敬語を使わないで話しかけられる方が、親愛の情を示されているようで好まれる場合があるということを示している。したがって、待遇表現は単に社会的な上下関係や立場といった社会的ファクターによって使い分けられているのではなく、話し手と聞き手との間の心理的距離感（宇佐美，1997）を含んだものと考え方が適切であろう。現代の待遇表現の使用には、社会的な上下のファクターだけでなく心理的なファクターも深く関わっており、社会的ファクターはむしろ相対的に弱体化に向かう傾向にあると言われている（菊地，1997）。しかし厳密には、このような待遇表現の使い分けは、待遇意図（菊地，1997）をもった話し手の立場から見たものである。今後は、さらに聞き手の側から見た待遇表現の研究が必要になってくるであろう。

参 考 文 献

- 文化庁文化部国語課（1995）. 国語に関する世論調査 — 平成7年4月調査. 大蔵省印刷局.
- 母育新（1999）. 待遇表現の習得における中国人学習者の問題点と教科書が与える影響. 平成11年度日本語教育学会秋季大会予稿集, 165-170.
- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵（1998）. 敬語表現. 大修館書店.
- 菊地康人（1997）. 敬語. 講談社学術文庫.
- 国語審議会（1998）. 新しい時代に応じた国語施策について—第21期国語審議会審議経過報告（1998. 6. 24）. 『国語年鑑』1998年版. 秀英出版.
- 宮岡弥生・玉岡賀津雄・浮田三郎（1999）. 外国人が用いた待遇表現に対する中国地方在住の日本人の評価. 日本語教育, 103, 40-48.
- 宮岡弥生・玉岡賀津雄（2000）. 待遇表現の適切性判断における地域差, 世代差および男女差の影響. 読書科学, 172, 63-72.
- 文部省学術国際局留学生課（1997）. 今後の留学生政策の基本的方向について（留学生政策懇談会第一次報告概要）.
- 森敏昭・吉田寿夫（1992）. 心理学のためのデータ解析テクニカルブック. 北大路書房.
- 荻野綱男・金東俊・梅田博之・羅聖淑・盧顕松（1990）. 日本語と韓国語の聞き手に対する敬語用法の比較対照. 朝鮮学報, 136, 1-51.
- 留学生政策懇談会（1997）. 今後の留学生政策の基本的方向について（第一次報告）.
- 辻村敏樹（1989）. 待遇表現（特に敬語）と日本語教育. 日本語教育, 69, 1-10.
- 宇佐美まゆみ（1997）. ポライトネス理論の展開：ディスコース・ポライトネスという捉え方. 日本研究教育年報（1997年度版）, 東京外国語大学, 145-159.